

令和元年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>・平成30年度までのSGHの取組を推進し平成31年度の国際バカロレアコース設置に向け、組織的な準備を進める。</p> <p>・国際社会の課題を認識し、問題解決能力を發揮してグローバルリーダーとして活躍できる人材を育成する。</p>	<p>① 総合探究推進チーム及び国際バカロレア（IB）研究グループを中心に探究学習及びIBが学校全体の取組となるよう校内の体制を構築する。</p> <p>② 「総合的な学習（探究）の時間」の課題研究が3年間の継続的な活動になるような実施計画を完成させる。</p>	<p>① グローバルリーダーとして活躍できる人材の育成に向けて、カリキュラムマネジメントの視点から、国際科本体及び国際バカロレアコースにおける探究学習の取組と姉妹校交流行事等を結びつけ、生徒の学力を伸ばす。</p> <p>② 「総合的な学習（探究）の時間」の課題研究を通して、問題解決能力を伸ばす指導計画及び評価方法を確定する。</p>	<p>① 主体的・対話的で深い学びの授業実践と姉妹校への訪問・受入等の実施をとおして、充実した学びへの肯定的意見が多く見られたか。（生徒アンケート）</p> <p>② SGH終了後の課題研究活動の指導計画及び評価方法を作成できたか。（目的の整理と実践）</p>	<p>① 学校全体でIB「学習のアプローチ」の5つのスキルの向上を意識した授業を実践した。姉妹校訪問や受入等により、他国の文化や外国語への関心を高めることができた。授業評価アンケートでは「新たに学んだことと既習事項を結び付けることができた」の項目で各教科で高い評価を得た。</p> <p>② SGHの取組を継続するべく、国際科本体とIBコースの両生徒にとって有益な講演会を新たに実施するなど、探究活動の拡充を図った。</p>	<p>① 新教育課程の策定を見据えながら、IBの視点を踏まえた授業研究及び教育活動のさらなる充実を図る。</p> <p>② 3年間を通して、より充実した課題研究の指導計画の策定を継続するとともに持続可能な指導体制について再考する。</p>	<p>【学校運営協議会委員】【保護者】 ○授業評価アンケートの結果で各教科とも高い評価を得ていることは大変評価に値する。</p> <p>○IB校としての認定から立ち上げて着実な対応を行うとともに、国際科本体の生徒とIBコースの生徒がお互いに良い影響を与えあうような取組を進めている。</p>	<p>【成果】 ○SGHの成果を踏まえた探究学習を継承し、IBの探究学習を計画どおり実施できた。</p> <p>【課題】 ○SGHの加配終了後の探究学習の指導形態の検討、及びIBにおける探究学習を中心とした学びの充実が必要である。</p> <p>○国際科及び国際科IBコースについて、相互に関連づけた探究型の教育課程を検討する。また、ICTのさらなる活用を図る。</p>	
2	生徒指導 ・支援	<p>・多様で柔軟な生徒支援体制及び相談体制の確立を図り、規範意識を身に付けさせるとともに生徒の自己理解と相互理解を深めるきめ細かな指導支援を行う。</p>	<p>① 生徒状況を正確に把握し、適切な指導・支援を行う。</p> <p>② 規範意識の醸成を図り、健全な人間関係の構築への支援をおこなう。また、状況をふまえて自ら判断し行動できる力を養う。</p>	<p>① 年次とグループが連携し、生徒に関する情報共有の緊密に図り、迅速かつ適切な対応を行うとともに教育相談コーディネーターを活用した相談体制を構築する。</p> <p>② いじめを廃絶する活動を生徒会主導の行事等の中で展開する。また、生徒の自主性を尊重した支援や指導を行い、コミュニケーション能力・意思決定能力の伸長を図る。</p>	<p>① 生徒理解を深め成長を目指した適切な対応が迅速にできたか（生徒相談事案の検証）教育相談コーディネーターを活用した相談体制を構築できたか。</p> <p>② いじめの認識を深め、廃絶する意識を高め、維持することができたか。（学校生活のアンケート意識度が80%以上）生徒主体の行事を実施できたか。（生徒行事の満足度80%以上）</p>	<p>① 多様化する相談事案に適切かつ迅速に対応し、教育相談コーディネーターを活用した相談体制を構築できた。</p> <p>② 生徒会を中心にいじめについて啓発し、意識を向上することができた。（学校生活のアンケート意識度が99%）また、生徒主体による行事实施後のアンケートでは80%以上の生徒が満足感や達成感を得たと回答した。</p>	<p>① 教育相談コーディネーターの活用による相談体制を維持する。</p> <p>② いじめや虐待などを早期発見できる体制を維持する。生徒の充実感を得られる活動を支援する。</p>	<p>【学校運営協議会委員】【保護者】 ○教育相談体制をさらに充実させる取組をお願いしたい。</p> <p>○アンケートで多くの生徒が行事に満足感や達成感を得ていることは評価できる。</p>	<p>【成果】 ○担任、年次、グループ等が連携し、さまざまな生徒指導上の課題に対応できた。</p> <p>【課題】 ○SNS等を通じたトラブルに適切に対応することが必要である。</p> <p>○教育相談コーディネーターのさらなる活用と、学校カウンセラーや校外の関係機関との連携を推進する。</p>	